アムスルだより

No.53 2002年 1月10日

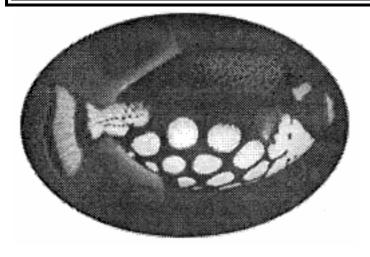


Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



するどい歯をしたおちょぼ口 - カワハギ・モンガラカワハギの仲間 -

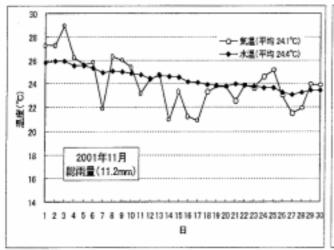
あけましておめでとうございます。 年初めてのアムスルだよりなので、 にちなんだ生き物の紹介をしようと地に たのですが、「ウマ」のつく生き物して ですが、「ウマッラアジャウリスが、オオウミウマッションが、オオウミウマッションがは ラハギ、カウミウオがに「今回といるので、カワハギの仲間、カワハギ科の魚についるのでに でいてお話ししたいと思います。

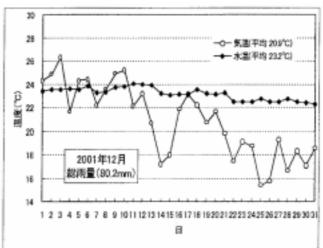
ウマヅラハギと言う名前は、顔つきが 馬に似ているからつけられたのでしょう が、ウマヅラハギにかぎらず、カワハギやモンガラカワハギの仲間は、みんな口のつき出た「馬面」をしています。この間、海の中で体長 40 cmをこえる黄色みがかった体に青い模様のソウシハギに登りがいましたが、その馬面は大した道道力でした。この魚は、50 cm以上にもなる大型のカワハギですが、逆にアミメハギは大きくても 5~6 cmにしかならない小型種です。この小さい体におちょぼ口なので、釣り人にとっては"エサ取り名人"の迷惑な魚です。

以前、この魚を飼ったことがあるのですが、ある日水槽を見ると壁に卵を産みつけていました。そして、母親のアミメハギは、その卵に口で水を吹きつけて、一生懸命に世話をしていました。また、ほかの魚がよって来ると必死に追いはらいます。この魚は、卵を守るため、そのまわりになわばりを作るのです。

残念ながら、慶良間の海でこのアミメ ハギを見かけたことはないのですが、ほ かの魚に追いはらわれたことはたびたび あります。モンガラカワハギの仲間です。 特にマエノハマにいるムラサメモンガラ にはしょっちゅう追いはらわれています**。**

阿嘉新港での定点観測





ムラサメモンガラはせいぜい体長 20cm くらいなので、まだよいのですが、クシバルで体長 40 cmもあるゴマモンガラに追いかけられた時には、さすがに少し怖くなりました。それでもじっと見てみるとどうやら砂地の上に作ったすりばち状の巣を中心になわばりを作っているようです。

どうしてこうしたモンガラカワハギの仲間は、なわばりをもつのでしょうか? 図鑑などでも調べてみたのですが、残念ながらわかりません。モンガラカワハギも卵の世話をするらしいので、アミメハギのように卵を守っているのかもしれません(それにしてはしょっちゅう迫いかけられていますが)。

モンガラカワハギの仲間は、本当にカラフルな模様をしています。また、これまで書いたように時おり人に近よっいいきます(追いはらうためですが)。ついはらうためですが、手はつたくなるかもしれませんが、手は出さないでください。この仲間は、カニやウニをばりばりとかみくだいてよす。ことになりますので、十分気を付けて下さい。

阿嘉島の海より

-あか・げるまダイビング協会-

昨年末、川道の垣花薫さんを会長とし て、「あか・げるまダイビング協会」が 組織されました。その目的は、座間味村 漁協と協力して慶良間海域のサンゴ礁域 の保全等を行いながら、永続的に無事故 でダイビング事業を行う(協会会則よ り)ことです。ちょっと難しい表現にな りましたが、簡単に言うと、慶良間のす ばらしいサンゴの海を守りながら、これ から先もずっと慶良間の海で生きていけ るように協力してがんばりましょうとい うことです。その他に、技術の向上、地 域への貢献、啓蒙活動などが目的に含ま れています。現在、阿嘉島と慶留間島の 全てのダイビングショップが会員となっ ています。研究所もアドバイザーとして 参加することになりました。まだ、でき たてホヤホヤのダイビング協会ですが、 オニヒトデの駆除に行ったり、船上げ場 の掃除をしたり、サンゴ礁の調査をした り、と積極的に活動しています。ただ、 慶良間の海を守るには、島のみなさんや 観光客のみなさんの理解と協力が必要で す。新しく誕生したあか・げるまダイビ ング協会をみなさんも応援して下さい。